

伏見酒造組合、秋の日本酒CP

【大阪】伏見酒造組合は9月30日から、秋の日本酒キャンペーン「京都伏見 日本酒SAKABA」を開催。オープニングに京都・錦市場の会場でメディアレセプションを行った。増田徳兵衛理事長(写真中央左)は、「日本酒が海外で注目されており、伏見酒も世界に発信して伸びていきたい。酵母も米も水も全て京都の原料を使うなど、地方色をより鮮明に養って伏見の酒をアピールしていく。また、京都市で日本酒で乾杯条例が制定されて今年で9年となる。もう一度改めて発信していきたい」などあいさつした。



京都・錦市場商店街「丹後テール」では10日まで、大阪・心斎橋PARCO地下2階「心斎橋ネオン食堂街」では29〜30日に、期間限定の酒場「京都伏見 日本酒SAKABA」を実施。組合22歳のうち17歳が参加し、伏見の日本酒40種類以上を提供。錦市場の9店舗からセレクトしたおつまみを用意した。蔵元が日替わりで来店して無料試飲や抽選会を行う「蔵元DAY」や、ワークショップも開催する。錦市場の会場では、1日の「日本酒の日」に、キャンペーンのアンバサダーに就任したタレントの安田美沙子が1日店長として来店し、日本酒で一斉乾杯を実施。このほか京都市内では、河原町・立誠ひろば(15・16日)、嵐山・ハジマリヒロバ嵯峨野(22・23日)にオリジナルラッピングのキッチンカーを出店し、日本酒を提供する。

(A)

伊丹酒造組合「日本酒の日」一斉乾杯 近畿の各地でも「日本酒の日」イベント



【大阪】伊丹酒造組合は1日、「10月1日は全国一斉日本酒で乾杯!2022」イベントを白雪ブルワリービレッジ長寿蔵で開催した。小西新右衛門理事長(小西酒造社長・写真右端)は、「日本酒の日のイベントは一昨年は講演会をZoomで、昨年はクローズで行い、

今年3年ぶりに振る舞い酒を復活できた。日本酒の日は今までは、乾杯することと重点を置いていたが、今年はずっと日本酒のことを知っていただく、飲んでいただく会にしたい」とあいさつ。鏡開きの後、小西理事長、藤原保幸伊丹市長(同中央右)による振る舞い酒を行い、一斉乾杯した。会場では伊丹酒造組合蔵

元(小西酒造、伊丹老松酒造、川辺酒造、岡村酒造場)の4銘柄が飲み比べできる「さき酒セット」や、地元飲食店による「お酒に合うアテ」、お楽しみ袋などを販売。近隣の広場では食フェス「伊丹郷町屋台村」も開催されており、来場者は伊丹の街を巡りながら秋の1日を楽しんだ。近畿エリアの各府県では同日、各所で「日本酒の日」イベントが開催された。滋賀県酒造組合は、「滋賀地酒10000人乾杯プロ

清酒中央会「日本酒で乾杯!」イベント



日本酒造組合中央会は「10月1日の日本酒の日」に「みんなで祝い!」イベントと題し、オンライン鏡開きや一斉乾杯のカウンタダウン、日本酒にまつわるトークセッションや自宅で簡単にできる日本酒に合う料理講座など幅広いトピックを交えつつ、離れた場所においても日本酒で同じ時間に乾杯するイベントを開いた。クライマックスとなった日本時間19時ジャストに行われた恒例の一斉乾杯では、オンラインを通じて国内各地と繋げる他、フランス・パリからの中継でも多くが参加した。オンライン配信では、特別ゲストとして、人気ドラマ「ワカコ酒」の武田梨奈が登場。日本酒にまつわる自身のエピソードを披露した。また、きき酒師の料理研究家・高橋善郎氏が日本酒に合うおつまみレシピを披露した。

(M)

「ジェクト」を実施。YouTubeでカウントダウン生配信し、オンラインや飲食店から参加して一斉乾杯した。京都では、伏見酒造組合が錦市場で展開する期間限定酒場「京都伏見 日本酒SAKABA」で一斉乾杯。大阪府酒造組合からは「大阪地酒・船場バルフェスタ」を船場センタービルで開催。播磨4酒造組合、姫路酒造協同組合、はりま酒文



株式会社 白子 東京都江戸川区中葛西 7-5-9

化ツリーズム協議会などは「全国酒まつりiノアクリエひめじ」を共催し、播磨はじめ県内の酒が飲み比べできるチャリティイベントを実施。和歌山では地元元日本酒10蔵、地ビール3社、梅酒2団体が参加して「わかやまの酒フェスタ」が開催されたほか、和歌山県酒造組合連合会は3日、「和歌山の地酒を楽しむ会」を実施した。

(A)